驛遞局認可

明治十九年八月五日

定價金四錢

女學雜誌

第三十二號

毎月三回發行

績文舍

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

●官報●（女學雜誌）衣食住の改良●（中外新報）七件●（學藝一斑）水の事○理學一斑●（列女傳）越後仙吉夫婦の傳●（雜記）造作なし貸家（西洋屋内の裝飾）○洋服裁方の原理○反古縣●（對譯）●（新作物語）巣守の妻第三回（春のや主人）●（家政要報）數件●（御伽草）辛崎の雨○街の水まき 數學問題及答式●（寄書）川柳の疑問○婦人涅齒の由來○世の御亭主に計る

◎官報

明治十九年七月九日 同十二日 同廿二日

○勅令

朕拾錢紙幣通用禁止の件を裁可し茲に之れを公布せしむ

御名 御璽

明治十九年七月九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第五十號

拾錢紙幣來る明治二十年六月三十日限通用を禁止す

○勅令

朕本初子午線經度計算方及標準時の件を裁可し茲に之を公布せしむ

御名 御璽

明治十九年七月十二日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋
陸軍大臣伯爵大山巖
海軍大臣伯爵西鄕從道
文部大臣森有禮
農商務大臣伯爵西鄕從道
遞信大臣榎本武揚

勅令第五十一號

一 英國グリニッチ天文臺子午儀の中心を經過する子午線を以て經度の本初子午線とす

一 經度ハ本初子午線より起算し東西各百八十度に至り東經を正とす西經を負とす

一 明治二十一年一月一日より東經百三十五度の子午線の時を以て本邦一般の標準時と定む

○勅令

朕駒場農學校及東京山林學校を廢し更に東京農林學校を置き其官制を裁可し茲に之を公布せしむ

御名 御璽

明治十九年七月廿二日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
農商務大臣伯爵山縣有朋

勅令第五十六號

東京農林學校官制

第一條 東京農林學校ハ農商務大臣の管理に屬し農業獸醫及森林に關する諸學術を敎授する所とす○第二條 東京農林學校の各專門學科を卒へ定規の試驗を經たるものに卒業證書を授與す○第三條 東京農林學校に職員を置くこと左の如し○校長○幹事○敎授○助敎 助敎補○訓導○舍監○書記○第四條 校長ハ一人奏任一等以下とし農商務大臣の指揮監督を承け東京農林學校を總轄す其職掌の要領を定むること左の如し（一）東京農林學校の秩序を保持する事（二）東京農林學校の狀況を監察し改良の必要を認むるの事項あるときハ案を具へて農商務大臣に提出する事○第五條 幹事ハ一人奏任とし現任校長の次等以下とす校長の指揮を承け庶務を掌理し校長事故あるときハ其事務を代理す○第六條 敎授ハ奏任とし生徒の敎授を掌る。敎授の人員ハ生徒の員數及學科に應じて別に農商務大臣の定むる所に據る○第七條 助敎ハ判任とす職掌敎授に亞ぐ○第八條 助敎補ハ判任とし敎授及助敎の職掌を佐く○第九條 訓導ハ判任とす實業を敎ゆることを掌る○第十條 舍監ハ判任とす校長若くハ幹事の指揮を承け生徒及校舍に關する事務を掌る○第十一條 書記ハ判任とす上官の指揮を承け會計及庶務に從事す

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○衣食住の改良

我が日本といへる社會をして文明國の番附中に入らしめんとするには是非とも衣食住の改良をなさゞるべからず衣食住の改良をなさゞる限りは爭でか文明國の仲間に入るとの叶ふべき文明國の仲間にいらんとは取りも直さず文明國の人々と相互に往來して交際をなすといふに外ならず商賣取引をなすも交際なり金錢物品の貸借をなすも交際なり學問の眞理を討論研究するも交際なり彼我の男女入乱れて互に手と手を取合て蹈舞をもなすべし飲食をも共にすべし彼の國の人を見立て婿ともなし嫁ともなるべし歐洲に姨を持ものあれば米國に姉を持つものあり暑中には寒國の親類を訪ひ寒季には暖國の縁者を尋ね相互に往來して愈々親密なる交際を結びてこそ始めて文明國の仲間入りをなしたりといふべけれ然るを相互に人情風俗を異にしては到底親密なる交際をなさん事思ひもよらぬ所なり堅くるしく高尚なる事を引くに及ばず彼のエソップ物語の中に狐と鶴との咄しあり狐の鶴を饗すに肉羹を平たき皿に盛りて出したれば鶴は嘴の長きが爲に之を吸ふ事能はず大に快からず思ひて鶴もまた肉羹を深き徳利に入れて狐を饗したる咄の如きは啻に狐の黠智なるが爲のみにあらず各々の狀態を異にするが故なり斯くてはいつで双方交際の親密を望むべき今我社會と歐米文明社會との人情風俗の異る有様は殆ど鶴と狐との情態と同様にして之れ衣食住の改良を急務とする所以なり扨て目下世の中の有様を見渡すに男子は稍々爰に着眼して洋服を衣靴を穿つもの増殖するの勢ひあり既に衣服を西洋にするのらはその便利の上に於ても家屋の西洋たらんとを望み食饌の肉食たらん事を思ふは素より當然の事なりと考へらる然に増々進んで實行する事能はず半途に躑躅する所以のものは固より種々の事情あることなりといへども一つは婦人の改進せざるが爲に妨げらるゝ所少しとすべからず衣服をば西洋に改めたれどもその細君たるものは聊かの破綻の綴り方をも知らず食饌を肉食にせんと欲すれども細君は之が料理法を知らず家屋を改築せんと欲すれども細君は和服の裾を引て疊の上に安臥せんとを望み男子洋服の便を説けば婦人は之を無意氣なりと譏り肉食の益を咄せばいまだ嘗て四足を食はずといひ洋館の都合よきを勸むれば階段の昇降に絹裏の裾を切らすと苦情を鳴らし既に男女の間に於て鶴と狐との狀態

五百九

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

を顯はし内輪割れを生じたりなどて歐米文明國の仲間入を計るに遑あるべきぞされバ先づ内輪に於て婦人ハ男子改進主義の仲間に入り然る後にこそ歐米文明國の仲間入をも計るべけれ婦人にして改進せざる限りハ到底文明國の仲間入ハ望むべからず今ぞ婦人の奮發ハ一日も忽にすべき時ならず斷然舊習を洗ひ流して外に對してハ婦人仲間の交際をも廣むべし内にありてハ學問もなすべく技藝も修むべし衣服の裁縫より洗濯の仕様料理の仕方までも心懸万事万端文明國の仲間入を目的として衣食住の改良を計るべし而てその始ハ結髮を廢して束髮となるにあり之れ改進の第一着歩なりさりとても外貌の形容のみを改めて足るべきにあらざれば愈々實力を養ふとまた怠るべきにあらざるなり是れその本を務むるなり嗚呼婦人にして改進せずむば何れの時か衣食住の改良を望まん

◎中外新報

○華族女學校行啓　去る三十日華族女學校に於て第一學期大試業卒業證書および修業證書授與式を執行ありたるにつき皇后宮にハ同校へ行啓あらせ高倉典侍御陪乘伊藤夫人香川皇后宮大夫三宮同亮等供奉にて午前八時四十分御臨校便殿に着御九時十分式場へ臨ませらるこの時奏樂あり次で學監下田歌子氏ハ小學全科卒業生及び中小學諸級及第生へ各證書を授與し優等生徒の爲に褒詞を述べ石山加壽子外三名へ賞品を與へらる續て小學全科卒業生及び中小學諸級及第生の爲に祝辭を述べられ小學全科卒業生總代大野繁中小學諸級及第生總代野村久子ハ答辭を述べ次に教授色川國士氏の演説工藤一記氏の學事報告等ありて式を畢るこの間奏樂ありて皇后宮にハ新築教場御通覽同所にて琴教師及び同生徒(二名)の新曲(月乃桂)を聞食され再び便殿に於て御休憩の上午前十一時過還啓あらせらる當日生徒一同へ御菓子を賜ふ又式場參列及び參觀の方方にハ三條内大臣松方谷の両夫人宮内省高等官その他生徒の親戚等百數十人式畢て式場參列員の立食あり親戚參觀人へも茶菓を出されたり

學監下田歌子の祝詞

去年の九月、此校の設けありしより、此方、幾んど、一年になりなんとす、月を經ることは淺く、日を重ぬること、はた多からねバ百般の事業未た全く調はずといへども、今日、幸ひに小學生徒の卒業式をあぐるに至りてまた、皇后宮の、親臨を忝うするを得たり、歌子等幸ひ、何事かこれにしかん抑も

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

當校の生徒は、大むね、貴族の女弟にして世の上流に居る人〻なれば、更に進みて、中學に入りての後は、よく勉め、よく學び婦人社會の標準とありて、此厚き忝き令旨に酬ひ奉るべし、今此式を擧るにあたり、聊か前途の愚衷を述べて、今日の祠文に代ふ

野村久子の答詞

今日此校の小學科卒業式を行はるとて皇后宮も親しく臨ませ給ひ數ならぬ身にも幸に此席に列なりぬる嬉しさはよのつねになんあはれこの校にありとあらゆる生徒は忝き御旨をかしこみ懇なる教へを守り力の及ばんかぎりつとめはげみて月の桂をたをり姫松の操をさづねて厚き御惠に酬ひ奉らんことをぞ希ひ侍るなる久子等今中小學の生徒に代りて今日の此祝詞にこたへ奉るにこそ

大野繁子の答詞

我が邦、いにしへより、女子の物習の道猶いまだ全たからざりしを、かしこくも、わが皇后宮は、深くこれを愁へさせ玉ひて、萬のよざの、日に月に、もえみゆく世に後れず、この校を設けさせ玉ひて、女子のつとめ行ふべき道を學ばしめ給ひ、すでに小學科卒業證書、拜戴の光榮をたまへりしづだまき數ならぬ繁子等も、いかでかはつとめ侍らざるべき、抑も今日の卒業と、卒業の光榮とも、このかたじけなき令旨よ、此懇なる教とによらざりせば、いかでかそと、かしこさのあまり繁子がつゝさなきをもわすれて學監の祝詞にこたへ奉るになん

○雅樂の評　往ぬる年英國の大子アルボルトヴヰクトルの宮およびジョーヂーオフウェールスの宮の御二方バカント號といへる同國の軍艦に召させて世界週遊の御途次我が邦へも來遊あらせろの節の御接待もいと淺からざりし事は當時の新聞紙にて讀者の知り給ふところなるが御二方御歸國の後ち週遊記といふを編纂せさせ給ひその中に我か邦の古樂を評したるところありとて倫敦の新聞紙に抄出せしを見るに「東京に至りたるに日本皇帝陛下の歐洲人を待たせ給ふあとのいと厚あるは今よはじめぬ事ながら我々は殊に非常なる厚遇を蒙りたり嘗て正餐の饗應を受くるに際り宮中より伶人といへる樂隊を送らせ日本支那朝鮮の古樂器の各々千五百年以前のものを以て奏樂せしめられたりしが此樂はいと希代なる樂にて宮中の外にては容易く聞くべからざるほどのものなり樂人どもは一室に籠りて奏樂をとじめたりしがその音調甚だ微弱にし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て且つ悲哀なるがゆゑに饗應に侍するものゝ中には誤りていまだ奏樂をはじめたるにはあらず調子を合せるならんさるにても餘りに時を移すは不審しゝとて竊かに傍人に尋ねたるに疾くに奏樂をはじめたりと聞て大に驚きたるものもあり知らぬ事とて是非もなし此樂も總て他の東洋の音樂と均しく西洋人の耳には調子もづれにて各々別々の調鍵に掛け音聲不諧といふは外ならず恰も解し得ざる外國語の談話を傍聽そるに均しき思ひあり然れども辛抱して暫く靜聽するときは常に聞きたしとはいふべからざれども我々の雅味の嗜好にては人の耳に口よせて私語げる狀の壽を見る心地して古き絹のやれて切々になり哀れげなるを見るが如く或は何處ともなく微かなる物の薫りを吹き來るが如く又は草木の花の雨風の爲めに敗られて病める姿を見るが如き感情を起すに足るべしと思はる」とありたり實に外人の耳に解し得難きは左る事ながら流石は歐人だけに適評とこそは思はるれ總て我が邦の音樂は人の感情を起さしむるに鈍きが中にも雅樂の如きは記者などの解し得ざるところなりと書かけたるとき傍に侍りける小僮口を出して「左らバデロレン、チョボクレ、左衛門のごときは能く解し得給ふになん」とぞいひげるあな口さがなき童にこそ

○東京高等女學校　東洋學藝雜誌の記る所に據ば同校は女子師範學校より分離せられたる以來增々盛大に赴き敎則をも改良ありしが尙は近々一ッ橋通なる舊体操傳習所へ移し米國より婦人敎師兩名を雇ひ入れ大に敎則を改正し專ら貴婦人の養生に適するものとせらるゝよし又先月八日に第二回卒業証書授與式を行はれ招待を受けて臨場せられたる貴顯貴婦人等も多く辻新次氏の出張中あるを以て淸水保氏代て同氏の祝詞を朗讀せられ生徒総代として松原いく子答辞を述べ次に文科大學長外山正一氏祝詞を述べ且つ女子敎育に關する有益なる演說をせられ式了るに臨み同校主幹箕作佳吉氏は來賓に謝辞を述べ茶菓の饗應ありたるよし

○婦人の海外留學　我が邦の婦人は一寸門外へ出るにもヤレ髮を結ふのヤレ衣服を着換ふるのと甚だ大層のことなるが米國の婦人にてヘレン、エム、ゴンガー女史といへるは この夏は獨逸國にありて英國および愛蘭土の社會上幷びに殖產上の事を勉强中なりと米國敎育雜誌に見えまた英國婦人新聞には此ごろ伊國のミランに留學する米國の音樂女生徒は三百六十人なりと見ゆこれを以ても歐米の婦人の有爲活潑なるを知るべきなり

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○女子職工學校　是まで女子に職業を敎ゆるの場所なかりしは吾人の遺憾とするところなるが去る二日の時事新報に工科大學敎授服部一三氏外數名の發起にて今度女子職工學校を設け婦女に相應の工業を修めしむべき計畫にて神田錦町なる元銀行講習所跡の建物を借受け來る九月ごろより生徒を募集すべき都合なりとあり喜ばしき新聞にこそ

○東京府中學校　にては去る三十一日初等中學科卒業生七名へ卒業証書を授與し各級及第生二百三十八名へ進級證書を授與せられ府知事代理として渡邊書記官臨席賞狀を與へられ丸山校長の祝詞卒業生徒總代の荅辭等ありて式畢り府廳學務課長課員府會議員學士等の來賓幷に卒業生徒へ晝食を饗せられたるよしさてまた試業の成蹟を聞くに生徒惣員四百五十名の中及第二百四十五人落第百六人欠席九十九人なりと

○外國人の版權免許　外國人に版權を與ふることは永らく英米兩國著述家出版家の一論題なるが此ほど達したる新英國敎育雜誌の報ずるところに據れは元老院議官チエース氏は外國の著述者に版權を與へ之を米國内にて出板せしめ外國の版權免許を有せる書籍の輸入を禁ずべしといふ議案を可決せしめんとて頻りに盡力せりこの議案中には鉛板を兩國に通用するの箇條なし若しこの議案を可決するに至りなば英國に於ても均しく米國の著述者に版權の利益を與ふる事ならんと思はるといへり我邦にても近々洋學の盛んなるに隨ひ書籍の輸入を増加するに至らば早晩かゝる論題の起る事もあらん歟

◎學藝一斑

○水の事

第一。水とは地球の流動物にして血の人體を循環し植物液の植物を循環するがごとく絶えず地球を循環して涵養するところのものなり

第二。水の作用を考ふる時は水車場、鍛鐵場その他の工作場等に必用にして樹木青草花果を以て地球を蔽ふもまた水の力ありと云ふべく山を洗ひ流して谷となし湖水となす事ありまた地中の汚穢物を洗ひ流して淸潔にするの功能あり

第三。概していふときは世界の諸物は殆んど皆水より成りたるものといふべし人體の血液中大部は水なり梅の實馬鈴薯等の四分の三は水にして水瓜の類は十中の九は水なりまた下等動物にして魚類のごときは水より成立たるもの多く殆んど皆水なりといふも可なる位なり博士アカッシズ氏は實驗により

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

三十九斤の目方なる翻車魚中固形物は僅かに一オンス（凡そ八匁）に過ずして他は皆水なりし事を發見せり（以下次號）

○理學一斑

〔第十節〕自然の事の學問は實際の行爲を管理する事

何事も偶然に生ずることなく一定したる自然の順序に從て起りまた自然の定則は自然の順序を包括するものなりとせば我我の行爲を管理する爲めに可成丈け自然の定則を知らんと勉むる事は甚だ必要なり

何人にても國の法律に從はずしてその國に住居せんと勉むるものあらばその人は甚だ困難を究め若し發見せられたらんには牢獄に繫がれ刑罰に處せらるべく人皆自ら禍を取りたるの愚人なりと思ふべし

是と均しく何人にても自然の定則に心懸けずしてこの地球上に生活せんとするものは長く生活することを叶はずして甚だ不快に暮すべし自然の定則の人爲の法律と異るところはたゞ處刑の言渡しなくして罰を課するにあり實に自然の定則に從はずしては半日も暮すこと能はず日々數多の人の死亡し或は哀れなる活きざまをなすものあるはいまだ人たるものゝ自然の法令を知らんとの熱心なきが故なり（以下次號）

◎列女傳

○越後仙吉夫婦の傳（前號の續）

意に懸るひとり兒は尋ねても得がたかるべき情深き人の許に預けぬ今は毫かも思ひおくかたなし然らば先づ何處にもあれ身の置き處を定めて營業の道をもとめばやと夫婦は板橋の驛を立ちて江戸に着しが横濱は富裕なる人の益得るといと稀にて貧しき者の身を立つるには好き處との聞けば彼處にて兎も角もせむと打連れだちて行きぬ末吉町といふ名のみは賴もしげなれど住人の体も賤しう品下れるをば厭ふ意もなく怪しの家に宿もとめて活計の道を問へば主人は夫婦の体を見つゝよき雇はれ口といはゞ商館の藏番旅人宿の帳つけなど其品も多けれど此邊わたりよりゆくりなく尋ね求むるとも容易とゝのふべくもあらず茶焙じは男女ともに雇人も多かれど氣節おくれぬれば拙々しくもあけれど海岸の荷物の持運び石炭庫の擔夫などの荒くれたる業ならむには港の浪のたゝぬ日はありとも不要なる日はをさ／＼あらず然る筋にてもよしとならば此處なる人々に伴はれて試みられよかしなど忠誠ぶちて敎ふるに飢たる者は食を擇ばずとのいへる類にてなどかは可否を

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

思ひ量る暇あるべき何れの道にても使るゝ人あらば參るべきに必ず誘ひてよなと懇ろに頼みつゝ其次の未明より出行きぬればお常ハ此宿の庖厨のとを助け宿とれる人の足袋肌着の汚れさる洗ひ淨めあるハ物買ふとて走り歩きあるハ夜着の綻びより此家の縫ものをさへ我義務のやうに意をつくれば最初ハ只よき人の宿りぬと悦びてさて過ぬれど度重なりてハ打棄ても置がたさに何程かの代を得さする樣になりぬ近隣の人向ひなる甲乙も偵に此のひくしき擧動を見て深く感じ宿とりてさる事をせずとも營業にハ斯て足りぬべきに此方へ移る意あらば店賃も定めのうちを引て貸さふられむなど云へば夫婦ハ聽て其處に住みつきて仙吉ハ拐の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

重きに肩を痛むを忍びお常ハ襤褸さへ針仕事に長き日を倦むことなく努むれバ故郷より携へ來り路費の殘りを散らしも果ず些ばかりづゝハ貯へらるゝやうになりぬ實や人の住む里に人鬼ハなしといへる俚言の如く仙吉ハ人足の賤しき者に立交りたればさる人のなれる果と見え知らるべき處とても無れど渠ハ見どころなり物の用にも立つべきにとふといふ人ありて其藏の近傍見めぐりて積入るゝ荷の數改めなど藏番荷物方とかいふ類の一層くだれる際まで取上げらるれば心遣ひころ多けれ重荷おふ苦しさもなく雇ハれしろさへ稍増たるに年かへりて十年の春となりぬ如月の初めつかたにや鹿兒嶋の浪の騒ぎに横濱も例にハ似ずいとしめやかになりて我國人の商ひわざも去年のやうにハあらず外國人も戰ひに用ある物扱ふ外ハ都てはか〱しからずとて藏を閉られしかば俄に活計を失ぬよきも惡きも狹き地ハ其影響の著しきならひなるに斯て久しく此處にあらば憂さを積みたる貯へも空しくなりぬべしと夫婦かたらひて卯月の中旬頃に東京へ歸り着ぬ上野の岡の花ハ散ぬれど惜しといふ人もなく旦暮西のそらのみ見つゝ如何かなりぬらむなど語るのも萬の營業みな甲斐なきなかに根津の里のうかれめが許のみハ人多く入こみていと賑しといふに

お常をすゝめて先此里に身を寄る方や有ると需めさするに遊女どもの髪わけにハならハねど普通の人のハ横濱にありし程よりよく物したれば其方にて雇ハむといふ人のあるまゝに或貸座敷といふに入る事となりぬ處から仙吉ハ伴ひ難さに引別れて住むほどもなく熊本に兵多く出立つにつけて彈藥もちはこび兵糧の配り取賄ふ者など募り集むる人ありよしや數の黄金ハ取得らるとも楯の板屋の玉霰のたばしるなかを馳せ廻るハ命ふたつ持らたむ人ころ堪もせめ植木田原の草の葉の露と消えむハ好ましからずなど思ハずしも有らぬにや我ゆかむと進みて言入るゝも多からずとか聞きて仙吉熟く思ふやう誰も厭ひて行ずといふころ取どころなれ流彈にふれて果敢なく死ぬばかりの微運ならば生存らへさりとて思ふさまなる事ハなし遂ずやあらむ虎穴に入らざればとかいふ言もあるに猶豫ふべき時かハなど勇みたちて聽てお常にも語らへば一處に有てころ憂きがなかにも亦慰む折もあれ遠き境に行わかるゝだに悲しきに尋常ならぬ戰ひのなかに起臥し賜ふを殘り居て思ひ遣る心細さハ如何ばかりとか察したまふらむなど一度ハ駐めしかどよく思へバ豫てより憂きとつらき事の數を盡してころ成得まじき事も成し得べけれ愁ひに引留めて進む心のさき折

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

らむもよきことにはあらじあゝ思ひ返してくだ〳〵敷はいひ爭はず實其は得がたかる幸ひなり家興さむとの望みの堅きには燒太刀も折れ思ひ構へし事の厚きには裏かくべき玉もあらじかしなど勇ましういへば仙吉も意さだまりて出たちぬ同じ道に進める者も多けれど元來何事にも人に超えて甲斐〳〵しく立ちふるまへば定の外にも得るもの多く度々の便につけて送り來る黄金も少なからぬをお常はよく取り纏めては然るべき方に預けなどして自らも怠らずつとむる程に十月ばかりに恙なくて歸り來ぬる悦びは何にたとへむものも無く別れし時には態と隱したる涙も此嬉しさにはなかなかに包み兼たるも道理とこそ覺えらるれ

◎雜記

○造作なし貸家（西洋家屋裝飾の心得）

衣食住の改良をなすにはその孰れを先にすべしといふとはいと難き事なれども强てその先後をいはんには余輩は家屋の制を改むることを先なるべきと思ふなりされば屋內裝飾のことを心得おくもまた不要のことにはあらざるべし英國婦人雜誌に造作なしの貸家と題する一篇の投書あり左にその要を摘載すべし蓋し屋內裝飾のことを示すのみにあらずまた以て彼の邦人生活の有樣の一斑をも示さんと欲するにあり扨て、——屋內の裝飾なき家を借らんと欲するときは通り筋の見え掛りの窓に「造作なし貸家」と記したる張札ある家を尋ねその內に入りて各室を見分すべしされども十が中の八九は氣に入らぬ家にて差配人（エーゼント）は借人を得んとて可笑しく口頭に花を咲せて實のなきものゝみぞ多かりける（眞逆に樽代に目をくれるものもあるまじ）扨てまづ家族の多少に隨ひ誰しも寢室の數を第一番に算ふれども恰ど望み通りに出來たるはいと稀れなり次に套房の狹き事食器棚さるに過ぎずして主人の衣服棚よりも狹くこれを套房といはんよりも寧ろ衣厨とやいふべき食堂は最階下の地下にありて料理場もまた之に準ずべし然ども日々步行廻はりて搜し求めたらんには遂に氣に入りたる相應しき家を發見そべしさらば是よりして屋內裝飾の騷ぎとはなるなり（以下次號）

○洋服裁方の原理（前號の續き）

大体並々の人の平方尺は六十四箇の頭の平方尺より成り立ち頂きより蹠までにて竪の長サ八箇また兩手の中指の先より先までの橫の長サも八箇なりこの丈の長サを區別すること甚だ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

肝要にして能々心得をくべきこととなりその小分の形圖ハジョンボノミ氏の人体比較圖といへるものあり就て見るべし

右の比較圖にハ人体を平面の線にて左の區別に分ちたり

（第一）頭部、頂より後部の第五脊骨まで（第二）胸部、胸骨まで（第三）腹部（第四）臀部（第五）腿部（第六）脛部（第七）腓腸部等なり

人體の横幅もまた頭にて分つ事なり人体の中眞に於て彫像を切半する線を中眞解剖線と名づけ腦より起り面部を經て體に下り人体を右と左りの兩半に分つの線なり通常並々の男の体と女の体とをこの線にて二分し男の一半と女の一半とを合て比較するときハその大サの差違甚だ僅かなるを知るべし即ちその差ハ總丈と總横幅とにて僅かに二インチ（即ち曲尺にて一寸六分七八厘ばかりなり後皆曲尺にて記すべし）にして此差ハ体の部分〳〵にて相違あり

正當なる並々の男ハ胸部の寸方よりも腰部の寸方凡ろ四インチ（曲尺三寸三分五厘餘）短く女ハ胸部よりも腰部の方短きこと凡ろ七インチ（五寸八分六七厘）なるべし（記者思ふに西洋の婦人ハ腰部を括るがゆゑにかく相違あることとならん）然れども乳房の大小に由て相違あり田舎の婦人ェてハ平均八インチより十インチ（六寸七分より八寸三分八厘）までの相違なり

男ハ胸部の周回と臀部の周回と同寸なれども女ハ臀部の方超過せり女の頸ハ男よりも細くして長し頭もまた女のハ後の方に偏りて着きたるものなるがゆゑに線をば衣服の肩部の後の方に於て定めざるべからそ之れ男の衣服を裁つとハ異るところなり肩骨も男ハ女よりも多く力を要するがゆゑに彎曲して自然に力を持つやうに成立（記者云ふ俗ェ差し肩と云ふものなり）女にハ此事なし（即ち流れ肩あり）また男の背部の幅ハ胸部の平面よりも廣く體ハ腰の後背に於て直立せり

女の體の第四部（記者思ふに第一部ハ頭部第二部ハ胸部第三部ハ腹部第四部とハ即ち腿部第五部ハ脛部ならん）の長さハ聊か上方の部分よりも長くまた脚の下部ハ少し短し

實際に於て總て女の寸方ハ男のものと同じく丈の長さを八分する事にて胸部の寸尺を以て他の各部の寸尺を知らるゝなり

直線の寸方を取る事ハ甚だ容易なれども周圍および直徑の寸方を取ることハ極めて精密に心を用ゐざるべからず故ェ常に心を働かして種々に考へを廻らすべし

寸方を取るところの身体ハ必ず頭を正直に保ち両手を均しく下に垂れて直立すべし寸方を取るものハ紙と筆とを備へ置左

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の順序に從ひ記載すべし

第一　腰部と背後との長サ

第二　胸部の寸方、腰と臀との寸方

第三　背後の幅、および袖の長サ

第四　袖の周回の寸方

第五　身體の直經の寸方

第六　前面の丈の長サ

第七　頸の寸方

（以下次號）

○反古曝

昔ハ我邦にても娘の子の遊びさま稍男の子と同じかりしよや今ハ女の子の竹馬などに乘りて遊ぶを見ば母親ハ女のくせにといひて誡むべし骨董集を見るに一代女（貞享三年印本）一之卷に云此四十年跡迄ハ女子十八九迄も竹馬に乘て門に遊び男の子も定つて廿五にて元服せしに斯もせわしく變る世や云々」按ずるに茲に四十年跡といへるハ正保の頃に當れり正保ハ今文化十年より凡百六十七年程前なり當時の人情ハ質朴にて小賢からざる故にかく幼氣なる事多かり今十八九の女子さる遊びをそべきかハ茲にいへる竹馬も今の如き竹馬とハ思はれず古代の如き生竹歟

◎對譯

○泰西箴諺の直譯

（甲）㈠死㈡跡㈢醫者　（乙）㈠小屋㈡貧賤なる㈢人㈣よまで㈤宮殿（で）㈥ある　（丙）㈠善き㈡家來㈢善き㈣主人（を）㈤造る

［前號（甲）の意譯ハ「氣樂よなりたいと思ふべし併し怠る勿れ」の意なれば爰に正誤しをく］

MAXIMS & PROVERBS.
泰西の箴諺

（甲）After death, the docter.
㈡ ㈠ ㈢

〔意譯〕死んだ跡で醫者

（乙）A hut is a palace to a poor man.
㈠ ㈥ ㈤ ㈣ ㈡ ㈢

〔意譯〕賤の矮屋も貧乏人には宮殿

（丙）A good servant makes a good master.
㈠ ㈡ ㈤ ㈢ ㈣

〔意譯〕善き家來ハ主人を善くする

SHOSEI NO EI-SEI.

Futari no shosei ga ei-sei no tame niwa niku-shoku ni kagiru tote usiya ni itari, gyū-nabe wo meizi; sake mo yōshu ga yoi tote, *beer* wo nomitaru ato nite hitori no shosei ga —"oi, kōkō no o kawari."

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

○巣守の妻　第三回

春のや主人稿

さる程に瀧口の妻は少女にゆくりなく呼留られて何の要にやと不審がれば。少女は愀然なる貌をあげて「つかん事をうけたまはりますやうなれど。アノー先達ての御隱居さまは……先日御一所に私𦖋へ。お休みなさいました御隱居さまは。たしのに小杜さまとおつしやいましたやうに……「なる程。おまへのおんひの通りあのお方は小杜さまざが。シテ其小杜さまに何か要が……「お仁違ひのもしれませんけど。もしやあのお方に御子息さまが「ア、ありますヨ「もしや新作さまト……「ア、新さまといふ……「エ、。それではいよ〳〵彼むかたが……」ト玄きりに驚き喜ぶ風情。瀧口は合點ゆかず。「どういふ譯で新作さまをおまへが知つてるの」ト尋ねのくれば。少女は覺えずも面を赧らし。玄ばしはうつぶきて言葉もなし。やゝありて面をあげ「これにはいろんな譯が……どうぞお慈悲に小杜さまのお宅を。何卒わたくしにお敎へなされて」○瀧口の妻は斯と聞て何とも其理由を辨へかねしが。多聞を憚るべう思はるゝ事を爰にて言へとはふも無心の業なり。さりとて輕々しく小杜の住居を。敎へてよい事やら惡い事やら。後よお尻が來ては迷惑な事なり。いつろ宜い加減な嘘言を吐いて。イヤ〳〵それもまた薄情でわらう。どのよな大切の關係のも玄れぬに。嘘言をつくといふはよくあい事。とにのく事の由を聞たゞした上。小杜の奧さまとも相談してその後宿所などは敎ふるがよのらん。幸ひ最早巳に歸途なれば宅まで此娘を連ていつて」トさすがは女氣とて情ぶかく「實は小杜さまの奧さまには。妾も六七年お目よかゝらずの過日久し振でお目に掛ッた事ゆゑ。今のお住居はよくも玄らねど。たしかに小石川の牛込との事。万一たしかな事聞たいとならはこれのら本鄕の森川町まで……わたしの邸まで來て御覽ヨ。邸で聞いたならば玄れるでわらう」ト例の持前の問よ合せ口條かなたは淡々しきウブの娘。これを眞にうけて打喜び「まことに有難う。それでは旦那さんよお暇を貰つて直にお伴をしてゆきますから憚さまですがすこしの間。店で……「ア、待て居てあげませう」トやがて一二間あと戻りして過日の氷屋に腰うちかくれば(亭主)被爲入い(少女)アレお客さまじやありません(瀧口)ナニ氷も貰ひませう。ブノ雪の花を。

少女はこのうちに言葉短かに亭主に何やらん打さゝやけば亭

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

主ハあまた〻び打うなづきて「それじやア往て來な」トゆるしの言葉。少女ハグタグタ帶しめなほして「奥さま。おまたせ申しました。それでハ何卒「仕度ができましたかへ。氷の代ハ……こゝへ置きますヨ(亭主)毎度ありがたう。ヨク被爲入い。

斯て瀧口ハ少女を伴ひ我家にたちかへりて奥に請じつ。「幸ひ夫事ハ湯治中で留主なり。外に憚るべき人もなければ身の上打明ていふたがよい。袖振あふも縁といへバ決してわるいやうにせぬ程に」ト肚より十倍も信切な口振。お民(少女の名)ハいつしのに涙ぐみて「御信切さまなお言葉に甘へてアノウ一通り申しますが……「フムその譯といふハ「もとわたくしハ名古屋

五百二十一

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

のもので……

やう〳〵十三になりましたとき親父も母親も虎列拉病に罹ッて。たつた二三日に亡なりまして。親類もなく縁者もなければ妾ハ此後ハ如何しやうか。虎列拉の神様も聞えませぬ。なんで妾一個取殘して。如斯なさけない依賴ない身の上。いつろ一思ひに淵河へ。ト巳にかけだしたもふたゝび三たび。近所の爺々に抑留られて。ろれから慈悲ぶかい仁の家で。とう〳〵其年の年の暮まで泣て日を送つて仕舞ひましたが。妾が十四といふ年のそとにめに。ほんに思ひよらん因縁で。ある大坂の人に貰ハれまして。大坂へゆくことにありましゝが。もと〳〵その仁ハ下宿屋の主人でまことよヱイ人で妾を可愛がつてくれたが。よく〳〵運のわるい身の上で。去年其仁もなくなりまして。それから養母が非道なので……妾にいろんな事いつて。否といふと邪見な事ばつかり……お耻かしいけど。元をいへバ。妾も士族の女ですもの。何がなんでも口惜しさに……ダから母親が妾を惡んでそれハ〳〵難題ばつかし。妾にいふことを聞せやう爲に女中も二個程外にあるのに。ヱざッと力業や河厭仕事ハ。いつでも選好んで妾にばつかり……ヤレ食倒しだのお荷物だのト日がな夜ッぴて小言をいつて。二ッ目にハ出てゆけのなんのト……とんな事いふハ勿体ない命の親。二度目の親。けつしておろゝのにハ思ひませぬけど。外の事ならバ兎も角もアノ何ばつかりハ……まことに〳〵悲しくッて死たうなり。ある晩裏の井戸へ身を投やうと。ろつと夜の十二時頃に忍んで庭口から泣て出るト。どうして其頃にお起なされたの。家に前の日から下宿なされた倘年のわかい書生さんが。恰ど厠からお出なさるところ。「何をしてるンだト見咎められて心が轉倒してゐましたので。ろしらぬ振をしてもトンチンカン。「なんだかをかしらしいおまへの樣子。マア〳〵こちへ來いト引わげられ。坐敷の片隅にチンと坐ッて。今更間が惡さよ默ッて居ますと。其書生さんが不審に思つて。いろ〳〵段々との信切なお言葉。ほんとの親々に死別れてかられ。ろくにハ氣にかけて妾の事をば。問ふてくれる者もない身の上。やさしう尋ねられた其うれしさ。實ハトわれ玄ふ平生のつらさを。泣て書生さんに話しまするとそれハ憫然な身の上だ。玄かし死のうとハ心得ちがひ。以後ハ幾分か力になつて。相談敵手にもなら
う程に」。ト玄み〳〵意見いふて下されたもの。妾もやう〳〵

ゑ納得して。其夜ハ常の通りふせりましたが……（以下次號）

前號の此欄の初に第三回とあるハ「第二回（つゞき）」とある

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

べきの誤なり又五百二丁の上段七行目「父親」の傍訓ちゝおやはてゝおや同下段三行目辛々は辛くおさきへの下にとを脱す同十行目長ひは長い十一行目呉れねばいよかはよいがの誤り又五百四丁上段十九行目「我家」の傍訓わがやはわがいへの誤りなれば謹で正誤す

◎家政要報

○僕婢の職掌(前號の續き)

臺所賄方を勤むるものは毎朝食事の濟みたる後手扣帳を持ちて主婦の居間に至り前日より殘りたる肉類野菜類その他の諸品にてその儘用ひ或ひは煮直し焼直して用ひらるゝもの等をはじめ食料室にある一切の食料品を詳細に報告しその日の諸買物を承りて手扣帳に記るしその日の中食および正餐の献立を書きて主婦にさし出しその改正増削を受け總て料理に關する一切の責任に當り料理人の製し能はざる物菓子および後段の食物などは自ら煮焼をなすべし他に召使の下婢はみなこの賄方の管理するところにして自分および僕婢の食物は自ら見計らひて日々指圖すべしまた日用品小買物の書出しあるひは小包等を商人より持參したるときは賄方に於てその代價を拂ひ毎月晦日に取纏め主婦に差出すべし

(以下次號)

○レモン水の製法　暑中は別して飲料に注意すべしとは知りながら渇欲の甚しき時は一時の欲に充んが爲めこれを選ばざる事間々あり斯る時の用意にはレモン水抔を備へ置けば至極便利なり扨てその製法は棒砂糖(上品の白砂糖にても宜し)二斤を七合ばかりの水にて煎じ沸騰したる後放冷し拘櫞酸の細末(藥店にあり)目方八匁とレモン精(橙皮油にても宜しよく水に混和するもの藥店にあり)數滴とを加へよく混和せしめ置き飲用する時は一コップの水に一茶匕を入れ飲むべし或は其割合まで水に和し置くもよしこれ甚だ淸凉の飲料なれども非常に渇欲ある人にはオートミール水を優れりとするの製法は次項に出すがごとし

○オートミール水　オートミール(燕麥の粉なり西洋食料店にあり)目方三十目ばかりを好みに從ひ一升二合より二升までの水にてよく煮之に煮物用の赤砂糖八匁より十二三匁ばかりを加へ尚ほ濃く思ふときは一二升の水を增すもよし夏季は放冷して飲み冬季は煖め飲用の前によく振るべしこれは渇きを止むるのみならず健康上に甚だよく殊に勞働くもの抔の飲用するときは身体疲勞することなし必ず試み給ふべし英國にては夏季の飲料として廣く行なはるゝものなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○日用品の相場　白米小賣相場は七月九日より改正にて一等米(舊上白)一斗一升八合二等米一斗二升六合三等米(舊中白)一斗三升五合四等米(舊下白)一斗四升二合五等米一斗五升五合○酒は變りなけれども○玉子は騰貴したる上に品少きよし○川魚も益々貴し

◎御伽草

○辛崎の雨

官位高き人とて悉皆學びのらう深く手かき歌よミ何くれのさま疎からぬ人のみは爭かあらむ昔何某の大納言とか聞えたる人の近江八景見にとて出られしヽ辛崎のあたり見めぐらる時雨いたく降出たれば從者して其ほたりのおやしの賤が家に宿もとめて一夜をあかされぬ主人の翁はやむごとなき人の宿らせ賜ふを悦びて處がら優れたる御歌もこそわらめ後の世の語りぐさにも請ひ參らせむと料紙硯など用意して御前に出れば君は返々主人の勞きを慰め賜ふに翁はかしこみつゝ彼瀟湘のさまには勝らずとも此眺望も聊かは御意にかなひしやらひといへば君は頷き賜ひて眺望もあしきにはあらねど雨の漏らぬが何寄よしとのたまひしとの

○街の水まき

此間から店頭へ怠らず水をまけと申し付けるに何故怠るぞ以後說諭を受るやうな事を致すと只では濟ぬぞト巡査が諭すと麻裏屋の女房は手をついてやぞでは近來商ひが減りましたと申して水のかはりに每日こぼして居ります

○數學問題

(甲)大小の二數あり其和は五千七百六十個ましてその差は大數の三分の一に同しといふときは各幾何づゝなるや

(乙)工夫四十八人にて若干日働き一事業をあせり今この日限の五分の四にてなさんとするには幾人を增加して可なるべきや

○前號數學問題の答式

$5:3::30:x$　$5\times x=3\times 30$　$x=\frac{3\times 30}{5}=18$　答十八圓

右答者は筒井まつ岩見茂敏荒井なか子

◎寄書

○川柳の疑問

千葉縣東葛飾郡關口幸次郎

嘗て貴舍女學叢誌中に川柳云々の事あり篤を勘考すれども川柳とは如何なるものにや了解致し兼候に付御示し被下度候

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(記者答。水楊ハ楊柳科に屬しカハヤナギ、エノコロヤナギ、コロコロヤナギ、サルナギ(勢州)ネコヤナギ(同上)フデヤナギ(備前)ミドリヤナギ、(奥州)トウトウヤナギ(伯州藝州)カハネコ(石州)等の俗稱あり東京にてハ俗ネズミヤナギといふ水邊に多く生じ二三尺或ハ五六尺に至る○葉ハ桃葉に似て厚く面ハ深綠色背ハ白くして互生し冬に至て落つ春未だ葉の出ざる先に花穗を發す形ち筆頭の如く長さ一寸許り絮多くして狗尾草の穗の如し白色にして光りあり花穗をネコダマ(越前)コブシ(同上)ネコノコ(若州)トウトウ(安藝。狗兒の意)東京にてハネズミといふ)

○婦人涅齒の由來　東京　緒方　正清　述

我が邦の婦人ハ涅齒の風習ありてその利害ハ衞生上に於て忽にすべきものにあらずと雖も世人の爰に注意せざるハ余が遺憾に堪へざるところなり此ごろ或る新誌にその原因を述べたるを見るに僅かに來歷の一斑を覗ふのみにして遺漏なきこと能はず固より余が說といへども詳かなるにはあらざれども幾分かその缺を補ふに足るべければ茲に雜誌の餘白を借て聊か世人の參考に供せんと欲するなり

山海經および文選註に曰く黑齒國ハ東海中にありその土俗草を以て齒を染む故に黑齒國と名く云々按ずるに恐くハ我國のおとならん平盖簪錄に之れを引て曰く日本の黑齒ハ古ただ婦人のみに行はれしが今ハ王朝宮人相通じてその齒を黑くす」とまた和事始異稱日本傳等にハ惠明院僧正記を引て男子の齒を染むるハ鳥羽天皇のころより始る由見ゆ」看聞草に載せたる源良顯の說によれば出雲國御前社へ天照太神素盞嗚尊を奉祀す宮司ハ素盞嗚尊の御子天葺根命の苗裔にして代々撿校の位と號し來れり今の撿校つ位ハ尊常と云ふ葺根の命より今日に至るまで五倍子鐵漿を以て齒を染む古來天照太神へ天子將軍の獻じ賜ふ器中に齒黑器品々ありと社家上官眞野左衞門兼雄の話なりされバ黑齒ハ神代より始まりし事なるべし

偖保元以來の合戰に公家より向ふ所の大將ハ皆古の風俗に習染せしものも其風習自づと武士にも染傳し特に平家の武士杯ハ皆鐵漿にて齒を染しと思はる(以下次號)

○世の御亭主に計る　小膽魂消女史

亭主バ女房を呼ぶに大聲にてマツーとのウメーとの怒鳴るハ社會の体面に拘はる以來ハ松サン梅サンとサン附にて呼んでもらい度し

記者白そ投寄の玉篇甚だ多し追々に揭載すべし性急給ふな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

點取競文新誌

第二號迄發兌次號毎月五十ノ日發刊紙幅通常大新聞ト仝シ一枚三錢二厘○一ヶ月前金拾八錢○三ヶ月前金五拾錢六ヶ月前金壹圓○一ヶ年前金二圓○郵税府内外ヲ問ハズ一ヶ月六錢ヅヽ○前金到着ノ上ナラデハ郵送セズ○郵便切手代用ノトキハ一錢切手ニテ一割増ノ事（）爲替御振込ノ時ハ東京神田區淡路町郵便局ヘ振込マルベシ

右點取競文新誌發行ノ主旨ハ廣ク世人ノ高文ヲ募リ本誌ニ掲載スルモノトス但シ該文題ハ當社ヨリ出ス○高點文ヨリ逐號掲載○最高點ヲ得タル人ニハ編輯人ノ見込ニヨリ一ヶ月二十五人ヲ限リ無代價進呈ス○講讀者三千人ヲ限ル○題外ノ文ヲ御投書相成ルモ不苦併シ掲載スルト否トハ當社編輯人ノ鑑定ニ任ス○其他詩歌等ヲ送ラル、不苦候

文題幷ニ見本御入用御方ハ一部分四錢御投入アレハ速ニ呈スヘシ

八月五日第一號發兌

東京神田區紺屋町廿八番地　大日本點取競文新誌社

學藝雜誌

毎月（五日〻二十日）二回刊行
一冊正價（遞送無料）金八錢

●前金の外遞送せず●郵劵代用の向ハ遞送費御自辨●見本一部ハ一錢切手八枚にて遞送す●割引半年分（十二冊）前金九拾錢●一年分（二十四冊）全壹圓六拾八錢●二年分（四十八冊）全三圓十二錢●賣捌所を望む向ハ特別割引すべし

本誌ハ專ら學藝教育に係る理論、應用及實驗の説を掲ぐ其科目ハ●心理●論理●教育●倫理●法教●法律●政治●史傳●地理●天文●博物●理化●算數●農商工●生理●健全●製造●圖書●小説●記行●衛記●速記●演説●體操●文法●修辭●經濟●統計●音樂●詩學●舞樂等にして其編輯の部門を雜録、雜纂、雜報の三に大別し其説の最も精練なる者、其事の最も新奇なる者、其實驗の最も正確にして智識開發に益する者を撰擇登載す●本誌を購讀する者ハ坐して良師に接し其教を受け、益友と會して其談を聞き、圖書庫中に入りて古今有益の書を繙き、廣く内外の學藝に關する新聞雜誌を一室に集めてこれを通覧し又躬ら各地を巡歴し親しく學事の景况を目撃するが如し●本社ハ別に教育雜誌なる者を發行して大に江湖の◎◎◎喝采を博し現今已に第十號に達したり

教育雜誌

八月十日第十一號發兌
毎月（十日〻廿五日）二回刊行
一冊正價（遞送無料）金六錢

●會計上社規ハ前と同し●見本一部ハ一錢切手六枚●割引十回分前金五十五錢●廿回分全壹圓●第十一號より大に紙面を改良す●第十號目録四十件、圖畫挿入●本誌ハ青年學生の智識を發達するを以て目的とし開卷有益學生必讀の世評を得たり●廣告料ハ孰れも一行二十三字詰一回分金五錢●十行以上一割引●五十行以上二割引●數回掲載の分ハ行數を合し割引計算す●廣告ハ學藝に係る事項に限り代價ハ前金の事

學藝雜誌
教育雜誌　發行所　東京淺草區（御藏前）南元町二十四番地　贊育社

舍告

	本誌代價表	
壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同　拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同　二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同　三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同　四拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必す代價郵税共郵便爲替又ハ郵劵運便にて御送附あらんことを希ふ●郵劵代用ハ壹錢切手にて一割増しと郵劵ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替劵と本舍へ御送附可被下候但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町弐丁目拾壹番地　績文舍

持主兼印刷人　松本義弘
編輯人　初鹿野鎌五郎

女學叢誌大賣捌

東京芝區愛宕町一丁目三番地　修正堂
同　神田區淡路町　巖々堂
同　神田區佐柄町廿一番地　東海堂
同日本橋區新段町　良明堂
大坂府備後町四丁目　岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目　江[illegible]舍
山梨縣甲斐常盤町　内藤傳右エ門
藝州廣島大手町一丁目　早速社
江州彦根西内大工町　新々堂
陸前國仙台大町四丁目　木村文助

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY